東北（とうほく）	Tōhoku	Touhoku
房総（ぼうそう）	Bōsō	Bousou
大道具（おおどうぐ）	ōdōgu	oodougu
凍り豆腐（こおりどうふ）	kōridōfu	kooridoufu

4　撥音を表すｎと次の母音字又はｙとを切り離したり、母音字が連続するときに長音でないことを示したりする必要がある場合など、音の切れ目を示すためには、例に示すように「’」を用いる。

〔例〕　単位 tan’i　　船員 sen’in
園遊会 en’yūkai/en’yuukai　　問屋 ton’ya
大伯（叔）父 oo’oji（ōoji）　　小唄 ko’uta

5　複数の語等によって構成される語を分けて書く場合には、例に示すように「-」を用いることができる。

〔例〕　九谷焼 Kutani-yaki　　田中さん Tanaka-san
七五三 shichi-go-san

6　固有名詞は、語頭を大文字で書く。

7　ローマ字によって文を書くときには、次に示すような点に留意する。
・書き始めの語頭は大文字で書く。
・区切り符号には、「,」（コンマ）と「.」（ピリオド）を用いる。
・助詞の「は」「へ」「を」は、それぞれ「wa」「e」「o」と書く。

8　この「ローマ字のつづり方」は、現状に混乱を来すことのないよう、各分野で用いることのある表記について直ちに変更を求めるものではない。各分野で用いることのある表記とは、外国語の表記に準じ国際社会で広く用いられるものなど、例に示すようなつづりを指す。ただし、それぞれにおいて改めて表記の在り方を検討するような場合には、従来の慣行を踏まえつつ、「ローマ字のつづり方」を参考として適切に対応することが望ましい。

〔例〕

各分野で用いることのある表記	「ローマ字のつづり方」による表記
judo（柔道）	jūdō/juudou
Tokyo（東京）	Tōkyō/Toukyou
Ohtawara（大田原）	Ōtawara/Ootawara
Shimbashi（新橋）	Shinbashi
ramma（欄間）	ranma
tempura（天ぷら）	tenpura
matcha（抹茶）	maccha

9　個人の姓名や団体名等を書き表す際には、「ローマ字のつづり方」を参考としつつ、当事者の意思を尊重するよう配慮するものとする。